

IV 教育課程編成の概要

1 小学部

(1) 目標

児童一人一人が特性や教育的ニーズに応じた生活や学習を行うことによって、関心・意欲が高まり、豊かに生きる力が育つ。

(2) 基本方針

- ◇ 子どもたちの楽しみをもとに、自ら精一杯活動できる状況づくりを大切に学習・活動を準備し、どの子ども主体的に生活できるようにする。
- ◇ 週日課をできる限り常態にし、生活単元学習を大切にしながら、子どもたちがめあてや見通しをもてるような生活づくりをする。
- ◇ 子どもたちが自分の力を十分に発揮して、体を動かし、人やものとかかわるような実践的な活動の中で、経験を広げ、豊かに生きる力を育む。

(3) 学習のねらいと内容および支援

学習名 (教科・領域) 【学習集団の 単位】	ねらい	主な内容	支 援
朝の会 帰りの会 (日常生活 の指導) (特別活動) (自立活動) 【学級】	朝の会:一日の予定を確かめ、その日の楽しみ(ねがい)や活動の見通しをもつ。 帰りの会:一日を振り返り、がんばりを認め合ったり、明日を楽しみにしたりする気持ちをもつ。	・あいさつ・歌・返事・月日・曜日・天気・一日の活動などの確認をする。 ・楽しみの発表、楽しかったことやがんばったことの発表をする。あいさつや会の進行等、当番活動に取り組む。	・視聴や模倣をしようとする態度や気持ちが高まるように、落ち着いた雰囲気づくりに心がける。 ・会や一日の活動の見通しがもてるように視覚的な支援(具体物、写真・絵カード等)や個に応じた言葉がけをし、一定した流れで行う。
からだの時間 (体育) (遊びの指導) (特別活動) (自立活動) 【学年・縦割 グループ】	精一杯体を動かす機会を設け、運動に親しむことを通して、健康の増進を図り体力を向上する。	5 月:運動会の練習 第Ⅰ期:音楽を使った運動 第Ⅱ期:プール学習 第Ⅲ期:用具・器具を使った運動 第Ⅳ期:歩く・走る運動 第Ⅴ期:体づくり・体ほぐし・ボールを使った運動 (5～2月を5つの期に分ける) 通 年:肢体不自由児を中心としたストレッチグループでの活動	・個に応じた好きな運動や得意な運動をベースにして、基本の動きに関するアセスメントなどを参考にしながら、単元や内容を工夫する。その際、学習指導要領の教科のねらいと照らし合わせ、内容が網羅できるように活動を仕組み、評価する。 ・学年の枠を越えた友だちや教師と楽しく体を動かせるように縦割りグループの活動を取り入れる。
生活単元学習 (生活単元学習) (各教科) (自立活動) 【学級・学年・連学年・部】	興味・関心に合った活動や、行事に沿った活動を、ある一定期間思う存分行うことにより、めあてや見通しをもって自発的・主体的に生活する。	・その時期の興味・関心から決める内容(遊びを核にした活動、制作的活動等) ・その時期の季節をとらえた内容(水遊び、雪遊び、年始の活動、一年のまとめ等) ・学年や部等の行事に合わせて設定する内容(校外学習や旅行等に向けての散歩や事前学習、松養祭に向けての図工的な活動等)	・主体的に活動に取り組むことができるように、発達段階を踏まえながら、興味・関心に合った単元を設定し展開する。 ・自発的・主体的な学習ができるように、評価表を用いるなどして活動を見返すことにより、ねらいや支援のあり方を検討し、環境設定や活動内容を工夫する。 ・めあてや見通しをもてるようにある程度の期間を設け、内容を工夫しながら活動を続ける。 ・個々の興味・関心に加え教科や自立活動のねらいと照らし合わせて、ねらいを立て、評価する。
遊びの指導 (生活科) (各教科) (自立活動) 【学級・学年・個別・小 集団】	遊びを学習の中心に据え、思いきり体を動かしたり、友だちとかかわったりしながら意欲的に遊ぶ。	・生活科の内容の中の「遊び」をはじめ、各教科にかかわる広範囲の内容。 ・昼休みの遊びの時間、活動と活動の間の休み時間等。	・思う存分、体を動かしたり室内等で自分なりに工夫したりしながら遊べるような環境を設定し、安全に遊べる遊具を工夫する。 ・教師や友だち同士のかかわりがもてるような遊具や場の用意をしたり、遊びを工夫したりする。

学習名	ねらい	主な内容	支 援
個別学習 (各教科) (領域・教科を 合わせた指導) (自立活動)	個々の教育的ニーズに 基づいた課題に取り組 み、生活に必要な知識 の習得や技能を高める ことを通して、生活力 を高める。	[国語的な内容] 発音練習、絵とことばのマッ チング、なぞり・書き写し・書き 取り・作文・言葉のやりとり等 [算数的な内容] 一対一対応、色と形のマッ チング、パズル、型はめ、数字書き、 計算等 [自立活動的な内容] 切る、貼る、塗る、ビーズ通し 等、歩行練習、ストレッチ、体 ほぐし、休養休息等	・主体的に取り組めるように、教育的ニ ーズと共に興味関心や伸びてきているこ と、諸検査のアセスメント等を大切に しながら学習内容を決め出す。その際、保 護者や関係機関とも連携を大切にする。 ・評価を活かし内容や方法を改善しな がら、系統的・継続的に行う。 ・個別の学習ファイルを作成し、学習内 容の共有化・継続化を図る。 ・机上学習だけでなく、児童の実態に応 じて体を動かしたりほぐしたりする時 間を確保する。
日常生活の 指導 (日常生活の 指導) (自立活動)	日常生活を送るために 必要な基本的な生活習 慣を身につける。	・登下校(あいさつ・靴の着脱等) ・身支度(衣服の着脱、整理整頓) ・保健衛生的内容 (排泄、歯みがき・手洗い等) ・移動(個人、集団) ・遊び(ルール、かかわり、余暇 活動) ・食事(マナー、道具の操作、偏 食) ・清掃 ・当番、係の活動等	・一日の流れに沿って、実際の生活場 面に密着した諸活動を、個に合わせて 毎日繰り返し指導する。 ・教師間の連携を密にし、常に同じ 指導、支援が行われるようにする。 ・個に応じた言葉かけや視覚的な支 援(絵や手本等)を工夫し繰り返し行 い、徐々に支援を減らして見守る。 ・生活に必要な技能・身体の動きを 獲得できるよう、自立活動の視点も 大切にして日常生活の中で取り組んで いく。
性教育 (体育) (特別活動) (自立活動)	健康な生活を送るため に、身の周りの清潔に 気をつける。 自分の体の成長につ いて知る。 男女に違いがあるこ とを知り、適切に行動 する。	・身の周りの清潔(手洗い、ハン カチ使用、歯みがき等) ・排泄の指導(便器の使い方、排 尿の仕方、排便後の拭き方等) ・身だしなみ(汚れたら着替える、 シャツをズボンにしまう等) ・着替えの場所、トイレの男女の 別 ・適切なかかわり方(プライベート ゾーンについて等) ・生理用品の扱い方	・日常生活の中で、手洗いや歯みが き等に繰り返し取り組む。 ・排泄記録を用いるなどして、排泄 のリズムがつかめるようにする。ま た、記録表を用いて家庭と連携を 図っていく。 ・鏡や写真などを用意し、自分の姿 を確認できるようにする。 ・更衣室、パーテーション等で男 女の着替えをする場所を分ける。 ・できる限り同性介助を心がける。
みんなの音楽 (音楽) (特別活動) (自立活動)	歌う、踊る、楽器をなら す、見る、聴く等の活動 を通して、音楽に親し んだり、季節感を味わ ったりする。 みんなで音を合わせ たり、ダンスや手遊びを したりしながら、集団 の中で音楽活動を楽しむ。	・ダンスや手遊び、歌などを通 して身体を使った表現の楽しさ を味わう。 ・合奏・鑑賞・パネルシアター等 を通して、いろいろな曲やリ ズムに親しみ、音楽を聴く楽し さを味わう。 ・校歌や部の歌など歌う機会 の多い歌や季節の歌等に親し む。 ・みんなのおんがくの時間や音 楽学芸会等で、連学年や部の友 だちや教師に向けて、発表をし たり聴いたりする活動を楽しむ。	・学習の流れをもとに実態に合 わせてねらいを決めだし、年間 を通じてステップアップでき る内容を考えていく(リズム・ 手遊び・楽器等)。また、行 事・季節を考慮した選曲や未 経験の活動も取り入れる。 ・高い音、大きな音が苦手な 子どもには、個に応じて配慮 する。 ・低・中・高学年の連学年毎 の3グループに分かれて行 う。子どもの興味・関心や実 態に合わせ、指導書を参考 に扱う内容や題材を決めだ す。
道徳 (道徳) (自立活動)	学級や学年集団で生活 する中で、友だちや教 師とより良いかかわり がもてる。	・集団生活におけるマナーや ルールを実生活の中で学 習していく。 ・周囲の人との望ましいか かわりについて実際の場 面で繰り返し学習する。 ・公共のマナーを日常の 学校生活の中でも意識 的に仕組んでいく。	・具体的な望ましい行動の仕 方や人とのかわり方(し ぐさ、ことば)など手本 を示し、一緒にやるよう にする。 ・声かけやカードの提示 など、子どもに応じた 方法で、徐々に一人 でもできるように支 援していく。

学習名	ねらい	主な内容	支 援
交流及び共同 学習 (特別活動) (自立活動) 【個別・学年 ・部】	今井小や居住地校、副 学籍校、今井保育園、 信濃学園分室の友だち などと共に活動するこ とを通して、仲よく楽 しい時間を過ごし、自 然なかかわりがもて る。	各学年：今井小学校との交流 低学年：今井保育園との学年ごと の交流 個 人：副学籍校との交流 その他：信濃学園分室との交流 地域の方との交流	・交流及び共同学習を計画する際には、相手校と事前事後の情報交換を密にして活動内容を検討する。 ・副学籍校交流では、相手校と個々の合理的配慮を確認し、適切な交流内容や回数について打合せを行う。
進路指導 (特別活動) (自立活動) 【個別・学 級】	集団の中での自分の役 割を理解し、係や当番の 仕事を意識し、やり遂げ ようとする。	・学級、学年、部の活動全体の中での係の仕事・丈夫な体づくり・あいさつと返事・人とのかわり・身だしなみ等。	・活動の成就感がもてるよう、お互いのがんばりや良さを認め合う場を設ける。 ・家庭でのお手伝いや日常のマナー等、保護者との連携も大切にする。 ・将来に向けてどのような力を育てればよいか、将来を見据えたつながりをキャリア教育の視点に立って考えていく。
児童会 (特別活動) (自立活動) 【個別・学年 ・部】	人前に出て話をしたり、 行動したりする力を高 める。 学年の枠を越えた友だ ちと活動を共にするこ とで、友だちとのより良 いかかわり方を学ぶ。	高学年は企画運営や進行を行う 4月：むかえる会（6年中心） 3月：おわかれ会（5年中心）	・活動内容のあり方については、年度ごと児童の様子に合わせて検討していく。 ・児童一人一人が、主体的に活動できるように、興味のある活動を中心に係の活動や発表の場を用意する。また、人前で見通しをもって活動できるように、くり返しの練習も大切にする。
部行事 各学年行事 (特別活動) (自立活動) 【学年・連学 年・部】	校外に出かけて、公共の 場での活動や季節ごと の体験、集団での行動、 寝食を共にする体験な どから、自然に親しんだ り、社会生活や集団行動 のルール、交通ルール・ 公共マナーを身につけ たりする。	宿泊学習（5年） 修学旅行（6年） 校外学習（学年ごと） 交通安全教室（5・6年）	・児童一人一人が楽しめる活動、活躍できる場面を用意し、もてる力を十分出せるような行事の内容・運営を考える。 ・児童が見通しを持って当日を迎えられるように、具体物やICT機器等による視覚的な支援を効果的に用いるなどして、事前学習を丁寧に行う。

(4) その他

- ① 児童が学びやすい指導形態と学習集団〔部・学年（学級）・グループ〕の工夫・環境整備を進める。障がいの特性に応じた支援方法や知識を整理・蓄積していくように努めたり、学年内で個々の児童の理解や学級運営の改善を図ったりしていく。
- ② 児童の発達段階と指導の適時性を大切にし、小・中・高（寄宿舎）の連携をとりながら、一貫性のある教育をめざす。また、学習指導要領における各教科の目標や内容、自立活動の領域に照らし合わせて個別の指導計画を見直していく。
- ③ 「年間授業計画（シラバス）」を作成し、部の活動と学年の活動を適切に位置づける。その際、児童が見通しをもって、自発的・自主的な活動になるように、活動内容や手順をある程度同じにして、繰り返し一定期間取り組む。
- ④ 身体・視覚・聴覚の障がいを併せもった児童の学習環境の整備を確立していく。その為に、それぞれの障がい特性を理解し、医療・福祉・家庭との連携を図っていく。
- ⑤ 支援会議や個別懇談会等で保護者・各担任はもとより、関係諸機関との連絡・情報交換を密にして連携を深め、一体となって児童を支援する。
- ⑥ 自立活動の指導は、個別の指導計画に従い児童の実態に応じて個別学習の時間やからだの時間、みんなのおんがくの時間に行うほか、全ての授業形態の活動の中で継続的に取り組む。
- ⑦ ICT機器等を利用した有効的な支援を行う。また、視聴覚機器等の職員研修の機会を設けて部全職員が活用できるようにする。iPadに関しても児童個人に合ったアプリ、使い方等を探り、活用していく。
- ⑧ 児童の生活経験を広げ豊かにするために、散歩学習、校外学習、宿泊学習など、校外で学習する活動を取り入れていく。また、機会をとらえて分室、今井小・今井保育園、副学籍校、地域の方々などとの交流及び共同学習を進め、人間関係を広め社会性を養っていく。その際、単元化を図り十分な事前学習を行って活動に見通しがもてるようにする。
- ⑨ ひまわり部の通学組の児童は、学年の仲間として、主にみんなの音楽や部行事、校外学習等を中心に活動を共にするが、その子の体調を配慮しながら一緒に活動していくようにする。また、訪問組の同学年児童との交流も学校行事や学年行事等、スクーリングの機会に行う。
- ⑩ 新入生及び転入生、4学年については、校内コーディネーターと連携して1学期中に支援会議を行う。